

みなさん、おはようございます。

今、読書感想文コンクールの表彰をしました。校長先生も、感想文を読みましたが、みなさんしっかりと書けていました。その中で、「この本おもしろいな、ぜひみんなにも紹介したいな」と思った本があったので、紹介したいと思います。

その本は、1年生の村上さんが読んだ、「けんかのたね」という本です。こんなお話しです。

ある日、おとうさんが仕事から家に帰ってくると、家では、4人の子どもたち、そしてペットの犬も猫もみんなで大げんか。それを止めようとお母さんもくたくたになりながら大きな声を出しています。お父さんが、どうしてけんかになったのか聞くと、子どもたちはみんな「自分は悪くない」と言って、他の子のせいにします。「あの子のせい」「この子のせい」…順番に責任をなすりつけて、しまいには、「犬のせい」、そして「猫のせい」ということになって、猫は部屋から追い出されてしまいます。猫は、ねずみがけんかの原因だと思い、ねずみに襲いかかろうとします。するとねずみは、言い訳をせずに、自分がけんかの原因だと認めて、覚悟を決めて「好きにして」と言いました。そんなねずみの姿を見たねこは、反省して犬に謝りに行きました。すると、犬も子どもたちにあやまり、子どもたちも次々に相手にあやまり

に行きました。ちょっと、ごまかしていたことも正直に伝えてあやまることができました。それを見ていたおかあさんも、お父さんもにっこり。みんなたのしい家族に元通り。

このお話で大事なことは、けんかの原因つまり「けんかのたね」は、ほんのちょっとしたことから始まるということ。でもみんなが「私のせいじゃない」と他の子のせいにしたり、「私は関係ない」と言ったりしていると、けんかがどんどん大きくなって取り返しがつかなくなってしまう、とうことです。皆さんもけんかをしたことがあると思いますが、「確かにそうだな」と思うのではないのでしょうか。校長先生は、大人のけんかもまったくその通りだなと思います。けんかを終わりにする方法は、自分の悪かったところを素直に認めて、相手に謝ること、それしかありません。もちろんそれはとても難しいことですよね。でも、子どもの頃に、素直に謝るということをやっておかないと、大人になってからも謝ることがとても難しくなります。素直に謝ることができないと、人から信用されなくなります。それはとてもつらく、寂しいことです。

もし、今度だれかとけんかになってしまったら、ぜひ自分から素直な気持ちで謝ってほしいと思います。